

Y09b 宇宙を学べる大学・天文学者のいる大学(1998年版)

沢 武文(愛知教育大)

ハッブル宇宙望遠鏡やすばる望遠鏡など、最近の観測技術の発展はめざましく、これらの成果がマスコミで大きく取り上げられるようになり、宇宙の最新の情報がテレビを通じて家庭にまで届けられている時代になってきている。このように、宇宙に関する興味・関心が非常に高まっている今日、宇宙に興味を持ち、もっと宇宙のことを学びたいと考えている受験生も増えていると考えられる。しかし受験生にとって、どの大学でどのような宇宙の勉強ができるのかといった基本的な情報を得る手段はあまり整えられていないのが現状である。前回、1992年～1993年にかけて、同様の調査を行い、天文教育普及研究会の資料として作成、配布を行うとともに、河合塾の雑誌および天文雑誌スカイウォッチャーに関連記事を掲載した結果、これららの情報をもとにして愛知教育大学を受験したという学生が数年間に10名近くもあり、情報の重要性を認識した。

前回の資料はいささか古くなりすぎたため、今回、「宇宙を学べる大学・天文学者のいる大学(1998年版)」として再度データを集め、インターネットのホームページ

http://phasms2.auephyas.aichi-edu.ac.jp/~sawa/1998_1.html

に公開し、また、これらのデータを冊子にまとめた。データは1998年5月を中心に、主に天文学会ネットワークの tennet および理論懇ネットワーク rironkon を通じて、電子メールで収集したが、前回の調査に協力していただいた一部の大学については、ダイレクトメールでの依頼も行った。

その結果、現在68大学・学部・研究室等から回答を得ている。これは前回の回答108大学・学部・研究室等にくらべるとかなり少ないが、メール中心のデータ収集であったこと、いわゆる地学系である惑星地球科学科などの回答数が少なかったこと、一般教育や宇宙以外の専門の講義が中心で、宇宙に関する教育をほとんど行うことができない大学・学部・研究室等ではあえて回答しないというところが多かったこと、などのためではないかと思われる。今回はこれらの調査結果とホームページ、冊子について報告する。